

**日本学術振興会研究拠点形成事業（A. 先端拠点形成型）
中間評価（26年度採用課題）書面評価結果**

領域・分科（細目）	医歯薬学・基礎医学（ウイルス学）		
研究交流課題名	ウイルス感染と宿主応答の総合的理解に向けた国際研究拠点形成		
日本側拠点機関名	京都大学ウイルス研究所		
研究代表者 （職・氏名）	教授・朝長啓造		
相手国側	国名	拠点機関名	研究代表者所属・職名・氏名
	イギリス	Imperial College of London	Faculty of Medicine・ Professor・Charles R. M. BANGHAM
	アメリカ	University of California Los Angeles	AIDS Institute・ Professor・Jerome ZACK
	ベルギー	University of Liege	Interdisciplinary Cluster for Applied Genoproteomics・ Professor・Lucas WILLEMS
	フランス	University of Strasbourg	Institute for Molecular and Cellular Biology Professor・Jean-Marc REICHHART
	ドイツ	University of Freiburg	Institute for Medical Microbiology and Hygiene・ Professor・Martin SCHWEMMLE

総合的評価（書面評価）

評 価

- A 想定以上の成果をあげつつあり、当初の目標の達成が大いに期待できる。
- B 想定どおりの成果をあげつつあり、現行の努力を継続することによって目標の達成が概ね期待できる。
- C ある程度の成果をあげつつあるが、目標達成のためには一層の努力が必要である。
- D 成果が十分にあるとは言えず、目標の達成が期待できないため、経費の減額または中止が適当であると判断される。

コメント

本課題では各研究参加者のこれまでのネットワークを統合し、感染症・免疫学の分野において、より多面的な国際的研究の発展を可能とする国際研究拠点の形成を目的としている。

学術的側面について、本課題は、参加研究者が非常に国際的であり、ウイルス学の第一人者をそろえている点が心強い。そのため、京都大学ウイルス研究所のコアラボメンバーを中心にハイレベルな研究成果が積み重ねられ、国内外の他機関との共同研究により質の高い論文を多数発表しており、その実績は評価に値する。また、従来、ウイルス学の分野では、ウイルス種をまたいだ研究者間の交流が十分ではなかったが、本課題により異なるウイルス研究を行う国内外の研究者がネットワークを構築し、密に連携を取り、相互の情報を共有することで、さらなる発展的研究が期待できる。

若手研究者の養成については、国際的に活躍できる人材育成のため、英語によるコミュニケーション・プレゼンテーション能力を高めるための取り組み及び若手による主体的な研究活動を推進している。これらの活動により、国際的な活躍を期待できる次世代リーダーの創出を期待する。一方、今後は本課題に参加する若手研究者の割合を高める努力をすることが必要であると思われる。

研究教育拠点の構築としては、海外の研究者が本課題を利用して行う交流実績がやや不足している感があり、この点については拠点が実施するセミナーやフォーラムに海外から参加する共同研究者の数を増やすなどの工夫も求められる。また、本課題で構築したネットワークを今後継続可能なレベルで確保できるかについての具体的な戦略を提示することが求められる。

1. これまでの交流を通じて得られた成果

観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究交流活動を通じて「学術的側面」「若手研究者の養成」「研究教育拠点の構築」の観点から成果があがっているか。 ・ 研究交流活動の成果として優れた研究業績が発表されているか。 ・ 研究交流活動の成果から発生した波及効果はあるか。
--------	---

評 価
<input type="checkbox"/> 想定以上の成果があがっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果があがっている。 <input type="checkbox"/> ある程度成果があがっている。 <input type="checkbox"/> 成果があがっているとは言えない。
コ メ ン ト
<p>・ 研究交流活動を通じて「学術的側面」「若手研究者の養成」「研究教育拠点の構築」の観点から成果があがっているか。</p> <p>学術的側面では、京都大学ウイルス研究所の「感染症コアラボ」を中心に、HTLV-1・HIV・インフルエンザウイルス等、世界的にも重要なウイルス感染症について、ウイルス学的な分子機構や病原性に関する研究、ウイルス進化に関する研究及び治療応用の期待されるウイルス・宿主双方からの幅広い免疫学的研究が行われており、科学的に重要な成果を上げている。</p> <p>若手研究者の養成では、国際シンポジウムへの参加支援・トレーニングコースの開講・英語力向上のための取り組み等多岐に渡る試みが行われており、国際的な活躍が期待できる人材育成が行われつつある。</p> <p>研究教育拠点の構築については、国際的な感染症研究教育拠点の形成を目指して、共同研究の推進・他大学附置研究所との国際シンポジウム・シリーズセミナー等が活発に行われており、着実な成果が期待できる。</p> <p>・ 研究交流活動の成果として優れた研究業績が発表されているか。</p> <p>研究成果として、海外拠点との共同研究により一流の学術雑誌への発表が27件、国際的評価の高い国際学会において、招待講演を含む多数の成果発表がなされており、十分な研究業績が創出・発信されている。</p> <p>・ 研究交流活動の成果から発生した波及効果はあるか。</p> <p>本課題によって、通常接点の少ない異なるウイルス研究を行う研究者同士が出会う機会を提供しており、新たな視点から共同研究を発展させる効果が十分に期待される。</p>

2. 事業の実施状況

観 点	<ul style="list-style-type: none">・ 研究交流目標達成に向けて、「共同研究」「セミナー」「研究者交流」を適切に計画し、実施しているか。・ 国内外の拠点機関及び協力機関間の実施体制・協力体制等は適切であるか。・ 研究交流活動の実施にあたり、適切に経費が執行されているか。・ 相手国において交流を行うに十分なマッチングファンドが確保されているか。
-----	---

評 価
<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 想定以上に効果的に実施されている。<input checked="" type="checkbox"/> 概ね効果的に実施されている。<input type="checkbox"/> ある程度効果的に実施されている。<input type="checkbox"/> 効果的に実施されているとは言えない。
コメント
<p>・ 研究交流目標達成に向けて、「共同研究」「セミナー」「研究者交流」を適切に計画し、実施しているか。</p> <p>京都大学ウイルス研究所は、共同利用・共同研究拠点として広く国内研究機関との共同研究を推進している。また、複数の感染症・免疫分野における国際的なネットワークに参画し、積極的に国際シンポジウム等の共同開催を行っており、それらの取り組みが学術的な成果に結びついている。</p> <p>一方、セミナー、研究者交流についても適切に実施されているが、研究者交流における若手研究者比率が若干低いと思われる。</p> <p>・ 国内外の拠点機関及び協力機関間の実施体制・協力体制等は適切であるか。</p> <p>国内外の拠点機関とは、研究試料の提供や解析技術の共有、論文の作成、シンポジウム等の共同企画が積極的になされており、その実施・協力体制は適切である。</p> <p>・ 研究交流活動の実施にあたり、適切に経費が執行されているか。</p> <p>経費の執行については概ね適切に執行されている。</p> <p>・ 相手国において交流を行うに十分なマッチングファンドが確保されているか。</p> <p>相手国から日本への派遣をより積極的に行うため、より充実したマッチングファンドが期待される。</p>

3. 今後の研究交流活動計画

観 点	<ul style="list-style-type: none">・ 目標達成に向けた計画が具体的であり、かつ実現性の高い内容となっているか。・ 今後の課題がある場合には、それを検討し、適切に対応しているか。・ 経費支給期間終了後も、当該分野における国際研究教育拠点として継続的な活動を行うネットワーク構築が期待できるか。
-----	--

評 価
<input type="checkbox"/> 想定以上の成果が期待できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね成果が期待できる。 <input type="checkbox"/> ある程度成果が期待できる。 <input type="checkbox"/> 成果が期待できない。
コメント
<ul style="list-style-type: none">・ 目標達成に向けた計画が具体的であり、かつ実現性の高い内容となっているか。 <p>目標とされている共同研究内容は、これまでの研究成果を発展させるものであり、十分に実現可能である。今後は、さらなる質の高い成果を上げることが期待される。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 今後の課題がある場合には、それを検討し、適切に対応しているか。 <p>これまでの枠組みを超えた共同研究の開拓のため、ホームページ等を活用した研究者間の情報共有の推進を目指しているものの、方策としてはやや乏しさを感じる。例えば、国内外から新規の共同研究テーマを選抜し、関連の研究者を新たに受け入れる等の対策も必要と考えられる。</p> <p>また、相手国との協力体制について、マッチングファンドや継続的なシステム構築などの戦略について検討する視点も必要であろう。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 経費支給期間終了後も、当該分野における国際研究教育拠点として継続的な活動を行うネットワーク構築が期待できるか。 <p>本課題は、既存の共同研究や研究者ネットワークを活用し発展的な形で国際ネットワークの構築に寄与している。経費支給終了後においても、発展的にネットワークを拡大することが期待できる。</p>